

## 2 よいよい学級集団には、集団と個の視点がある!

個への指導・支援を必要とする子どもたちに対して適切な対応を行うためには、個への指導・支援を充実させるだけでなく、全ての子どもたちを大切に作る学級づくりや、どの子にも分かりやすい授業づくりを行うことも大切です。つまり、よいよい学級集団をつくるためには、「特別支援教育の視点」を取り入れながら、集団への指導・支援と個への指導・支援の2つの視点をもって取り組むことが重要です。

ここでは、2つの視点のうちの個への指導・支援に焦点を当て、3つのポイントを踏まえた適切な指導・支援の在り方についてご紹介します。

### 学級集団づくり



#### 集団への指導・支援

すべての子どもを大切に  
する学級づくり

- みんなが安心して過ごすことができる学級づくり  
(ルール)
- 一人一人の違いを認め、  
支え合う学級づくり  
(リレーション)

※P 1～2参照

どの子にも分かりやすい  
授業づくり

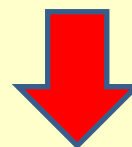
- 取り組みやすい学習環境の工夫
- 一人一人の学び方の違いに  
考慮した授業づくり

※「学力向上のための手びき」  
(H25 西部教育事務所) 参照

#### 個への指導・支援

苦手なことも得意なこと  
とも支える

- 子ども一人一人の理解
- 困難さを軽減するための  
支援や配慮
- 「認める」「ほめる」機会  
の拡充



### 自尊感情の向上

自尊感情を向上させることは、二次的障害の予防にもつながります!



個への指導・支援を行うに当たっては、学級(教科)担任が一人で対応できることと、できないことを整理した上で、一人での対応が難しいことについては他の職員の協力を得る等、学校全体として対応する(校内支援体制を整える)ことが大切です。

# ★個への指導・支援 3つのポイント★

## ポイント1：子ども一人一人を理解する



### ★子どもの姿を**肯定的**に捉えましょう！

○行動の背景を考えましょう。

- ・些細なことでケンカをしてしまう → 登校前に家庭で強く叱られた、自分の思いを言葉でうまく伝えることが難しい
- ・授業中にたびたび離席してしまう → 注目してほしい、授業内容がわからない

○得意なこと、苦手なことの両面を把握しましょう。

- ・聞いて理解するより、見て理解する方が得意 → 視覚支援の活用

○子どもの見方を変えましょう。

- ・「～ができない」 → 「～ならできる」「～の手立てがあればできる」

## ポイント2：困難さを軽減するための支援を行う

### ★苦手な部分を**補う**視点で具体的な支援策を考えましょう！

<支援の例>

#### 【授業中、たびたび離席する】

- 着席する目標時間を短く設定して段階的に伸ばしていく、異なる課題を個別に準備する、しばらく見守り自分から席に戻ったときにすかさずほめる 等

#### 【勝つことへのこだわりが強く、負けを受け入れることができない】

- 活動の前に「負けそうになっても最後まで活動する」ことを確認する、勝ち負けのある単純なゲームを計画的に行い、負けを受け入れることができる経験を増やす 等

#### 【相手が傷つくことを言ってしまう、トラブルになることが多い】

- 落ち着いた後に、図や絵を用いてトラブルになった原因を一緒に考えたり、適切な言葉遣いや行動の仕方を具体的に教えたりする 等

#### 【音読が苦手】

- 漢字にふり仮名を付ける、文節毎に「/」を入れる、読む行に定規をあてる 等

#### 【読解が苦手】

- 文章に関係のある絵や写真を提示する、キーワードを囲む 等

#### 【筆順に沿って漢字を覚えることが苦手】

- 漢字の構成要素に分ける（台はムと口）、絵と関連付ける（と山） 等

#### 【計算が苦手】

- 計算の手順を言語化した手順表を活用する、筆算がしやすいマス目入りのワークシートを準備する 等

## ポイント3：「認める」「ほめる」機会を拡充する



### ★「認める」「ほめる」**視点**を持ちましょう！

○取組の過程やその子なりの努力を評価しましょう。

- ・「自分から席に戻れたね」「友だちと一緒に机を運べたね」「道具を元の場所に戻せたね」

○その子の得意なことで、認められる場面をつくりましょう。

- ・「地名博士の〇〇さん、みんなに〇〇県の県庁所在地を教えてくださいませんか？」